

# 木津川計の ラストステージ・ルナ

桂米團治を迎えて 口演と落語とトーク

**口演** 「私の『一人語り劇場』の話」 木津川 計

**落語** 「当日のお楽しみ」 桂 米團治

**鼎談** 「上方芸能」と桂米朝の偉業を偲ぶ

木津川 計・桂 米團治・河内 厚郎



平成28年 9月23日〈金〉

午後6時開演(5時30分開場)

前売1,500円 当日2,000円

全席  
指定席

※未就学のお子様のご入場はご遠慮ください。

## 芦屋ルナ・ホール

〈芦屋市民センター 大ホール〉

●前売り開始：平成28年7月15日(金)より

●チケット発売所：芦屋市民センター事務所、市役所売店、ローソンチケット(Lコード52361)

《お問い合わせ》 芦屋市民センター ルナ・ホール事業担当 ☎0797-35-0700

[http://www.city.ashiya.lg.jp/kouminkan/shimin\\_center.html](http://www.city.ashiya.lg.jp/kouminkan/shimin_center.html)

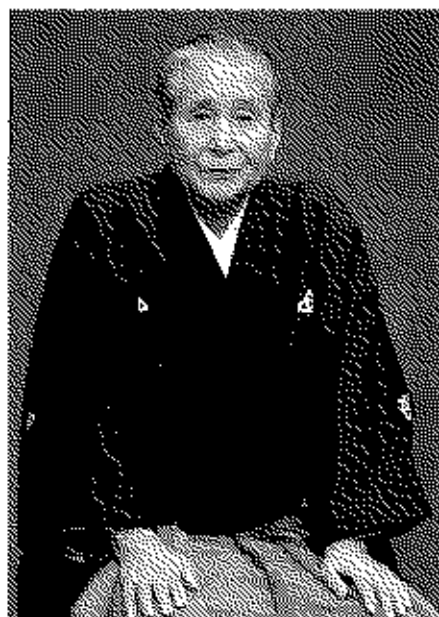
# 木津川計のラストステージ イン ルナ

芦屋で始まった「木津川計の一人語り劇場」は、平成28年4月の芦屋ルナ・ホールでの口演で最終回を迎えた。また木津川計が主宰し48年の歴史を持つ雑誌「上方芸能」(季刊)も、同年5月(200号)で終刊した。

芦屋ルナ・ホールで米團治の父・桂米朝独演会からスタートした「芦屋市民寄席」も、桂米團治独演会で通算70回目を迎えた。平成29年1月からのルナ・ホール改装前に、木津川計の口演と米團治の落語をお楽しみいただき、「上方芸能」と桂米朝が上方文化に果たした偉業を偲ぶ。



## 桂米朝と木津川計・雑誌「上方芸能」



「落語に出てくるアホは、みな男で、女のアホが一人もいません。それはなぜかを米朝師匠にある目尋ねますと、あの訳知りが『えーっ!?』と絶句され、『言われてみたらそうでんなあ、なんででっしゃろ?』と問い返されたのです。以来、師匠との間ではベンディングになっていたのですが、私は答えは出しています。生活の場では女は男よりみんな賢いのです。その反映で、落語には女のアホが一人もいないのです。」  
(木津川計)



<桂米朝>1925年(大正14年)生まれ。第二次世界大戦後滅びかけていた上方落語の継承、復興への功績から「上方落語中興の祖」と言われた。1996年に落語界から2人目の重要無形文化財保持者(人間国宝)に認定され、2009年には演芸界初の文化勲章受章者となった。5代目桂米團治の父。

<上方芸能>1968年、木津川計自ら創刊し、編集長を務めた雑誌「上方芸能」は、落・狂言・歌舞伎・文楽・尺牒・地歌から落語・漫才に至るまで、京阪神の芸能や大阪文化を幅広く紹介、論評する専門誌として48年の歴史を持つ。

## 出演者プロフィール

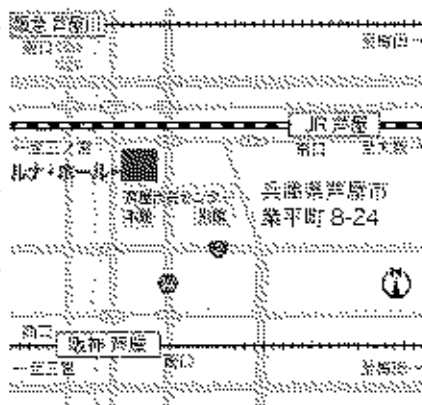
**木津川計** 1935年生まれ。大阪市立大学文学部卒業。元雑誌「上方芸能」発行人。元立命館大学教授、和歌山大学客員教授などを歴任。現在はNHKの「ラジオエッセイ」にレギュラー出演中。10年前に旗揚げした「木津川計の一人語り劇場」を各地で口演。著書に「人間と文化」(岩波書店)、「<趣味>の社会学」(日本経済新聞社)、「上方の笑い」(筑談社現代新書)、「上方芸能と文化」(NHKライブラリー)他多数。京都府芸術功労賞、第46回菊池寛賞他を受賞。

**桂米團治** 1958年生まれ。実父は落語家人間国宝の3代目桂米朝。関西学院大学文学部在学中の1978年8月に父・米朝に入門し、桂小米朝を名乗る。2008年10月、5代目桂米團治を襲名。毎年、芦屋ルナ・ホールでの「芦屋市民寄席」桂米團治独演会に出演し好評を博している。

**河内 厚郎** 1952年、西宮市生まれ。甲陽学院卒。一橋大学卒。文化プロデューサー。「関西文学」編集長を2期15年務める。(財)兵庫県芸術文化協会理事。兵庫県芸術文化センター、特別委員。関西経済同友会幹事。著書「淀川ものがたり」、「わたしの鹿妻花伝」、「もうひとつの文士録」、「神戸からの伝言」、桂米朝氏・藤本義一氏との対談集「関西弁探偵」、有栖川有栖氏との対談集「大阪探偵団」など。

## 《会場アクセス》

- 阪急電車「芦屋川」駅より徒歩約7分
- JR「芦屋」駅より徒歩約7分
- 阪神電車「芦屋」駅より徒歩約8分





第七十一回 市民寄席



ざこば

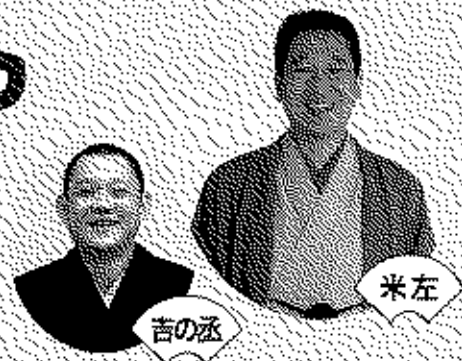
雀三郎

南光

# ざこば・南光・雀三郎 三人会

平成28年 11月25日〈金〉

午後6時30分開演(6時開場)



吉の丞

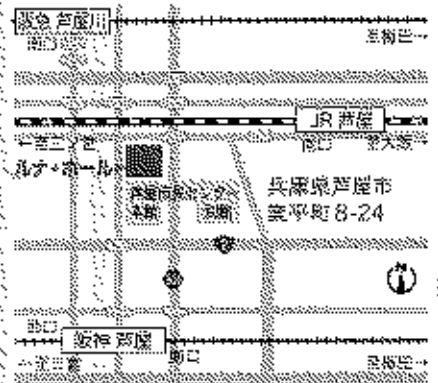
米左

桂 桂 桂 桂 桂  
雀 ざ 南 米 吉  
三 ご 光 左 の  
郎 ば 中 入 丞  
郎

《出演》

ルナ・ホール  
〈芦屋市民センター 大ホール〉

\*阪急電車「芦屋」駅より徒歩約7分  
\*JR「芦屋」駅より徒歩約7分  
\*阪神電車「芦屋」駅より徒歩約8分



前売3,000円 当日3,500円 全席指定

※未就学のお子様のご入場はご遠慮ください。

前売開始:平成28年9月15日(木)

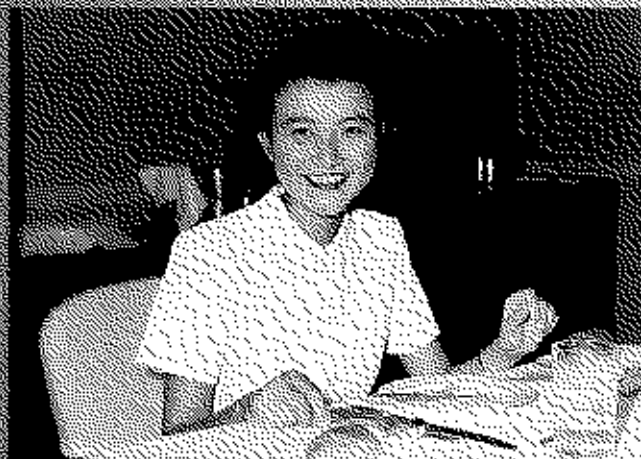
チケット販売所:市民センター事務所、芦屋市役所売店、  
ローソンチケット(Lコード55084)

主催:芦屋市・芦屋市教育委員会 制作協力:米朝事務所

《お問い合わせ》 芦屋市民センター ルナ・ホール事業担当 ☎0797-35-0700



# 須賀敦子と芦屋・西宮



芦屋市教育委員会（須賀敦子）

イタリアを愛し、文学を愛し、人を愛し、惜しまれて逝った作家・須賀敦子は、芦屋琴ヶ丘で生まれ、西宮の原川、東京麻布で育ちました。イタリアミラノでの結婚後も、日本とイタリアを往還し、平成10年、「風川のこと書かなさうね、わたし死んでる場合じゃないわよね」という言葉を残し、何天されました。

『ミラノ霧の風景』『ヴェネツィアの橋』『リリエステの坂道』など洗練された文章で紡ぎだされた作品は、今なお多くの読者を魅了しています。各界の研究者や仲かひの人の話を聞きながら、その偉業を芦屋文学サロンで偲びます。

## Program

総合司会 ▶ 文化プロデューサー 評論家 河内厚郎

講演) 須賀敦子と阪神間の風景 ▶ 西宮戸塚研究所員 蓮沼純一

映像) 鼎談: 須賀敦子と生きた、少女時代の思い出

[稲地汀子・北村良子・河内厚郎]

映像) 須賀敦子の過ごした、小林聖心女子学院

[Sr. 柳瀬竹知子(小林聖心女子学院 校長)]

[Sr. 須山佐和子(聖心会 小林修道院)]

講演) 声をもつこと—須賀敦子さんの文学と生き方 ▶ 司会 北原千代

2016年

# 10月22日[土]

開演 午後2時 (開場 午後1時30分)

入場料 前売 1,000円  
(全席自由) 当日 1,200円

チケット販売所 9月15日(月)迄発売  
芦屋市民センター事務局  
芦屋市役所書店  
ローソンチケット(住所コード 52146)

## 芦屋市民センター ルナ・ホール

アクセス

JR「芦屋」駅下車 西へ徒歩約7分 /  
阪神「芦屋」駅下車 北へ徒歩約8分 /  
阪急「芦屋川」駅下車 南へ徒歩約7分

【主催】 芦屋市・芦屋市教育委員会

【問合せ】 ルナ・ホール事業担当 0797-35-0700 (〒659-0068 芦屋市業平町8-24)



# 須賀敦子の生涯と芦屋・西宮



『ユルスナールの靴』に登場する写真  
(北村良子提供)

— 黒いエナメルの、横でボタンと留める靴、  
すこし大きめだから、白いソックスをはいた  
片足をせつなそうに曲げている。 —

- 1929 1月、大阪の赤十字病院で生まれる。(芦屋市翠ヶ丘)
- 1935(6歳) 夙川の殿山町に移る。小林聖心女子学院入学。
- 1937(8歳) 東京都麻布本村町に転居。聖心女子学院に編入。
- 1943(14歳) 疎開で夙川にもどり、小林聖心女子学院に編入。
- 1945(16歳) 終戦、聖心女子学院高等専門学校英文科に入学。
- 1948(19歳) 聖心女子大学外国語学部英語・英文科二年に編入。
- 1952(23歳) 慶応義塾大学大学院社会学研究科に入学。
- 1953(24歳) 大学院を中退。9月、パリ大学文学部に留学。
- 1955(26歳) 7月、帰国。日本放送協会国際局に勤務。
- 1958(29歳) 9月、渡伊。ローマのレジナムンデイ大学で学ぶ。
- 1960(31歳) コルシア書店の企画に参加するため、ミラノに転居。
- 1961(32歳) ジュゼッパ(ベッピーノ)・リッカと結婚。
- 1967(38歳) 母の危篤を知り一時帰国。小林聖心女子学院で英会話を教える。
- 1971(42歳) 8月末帰国。慶応義塾大学国際センターに勤務。
- 1998(69歳) 3月20日、心不全で永眠。



須賀敦子(1929-1998)は、大阪府芦屋市に生まれ、幼少時代から西宮市で育ち、1945年に終戦を迎えるまで、聖心女子学院で学んだ。戦後、パリに留学し、その後、ミラノに移住し、作家としての活動を開始した。代表作『ユルスナールの靴』は、彼女の自伝的な要素を含んだ小説である。彼女は、戦時下の疎開生活や戦後の生活、そして国際的な交流を通じて、独自の文学世界を築いていった。

## 芦屋のころ



〈映像・出演〉 撮影：赤松徹博

### 鼎談：須賀敦子と生きた、少女時代の思い出

稲畑汀子(「ホトギス」名誉主宰)  
北村良子(須賀敦子実妹)  
河内厚郎

### 須賀敦子の過ごした、小林聖心女子学院

Sr.棚瀬佐知子(小林聖心女子学院校長)  
Sr.曇山佐和子(聖心会 小林修道院)  
佐治百合恵・山崎真奈  
(芦屋市 姉妹都市学生親善使節)

『ユルスナールの靴』1992年7月号 芸術家画廊展覧会開催

## 出演者 紹介



河内厚郎 文化プロデューサー・評論家

1952年西宮市生まれ。奈良文化財団理事、兵庫県立芸術文化センター特別客員、宝塚市大使、  
「はひすの市民大学」学長、三田市総合文化センター事業企画アドバイザー、関西経済同友会  
幹事、著書に『淀川ものがたり』『わたしの風姿花信』など、時事通信の寄稿を担当。



北原千代 詩人

既刊詩集は『蘭の嫁』(真珠川 Barranco)(思潮社)など4冊。朝日カルチャー・芦屋教養、福井県詩人親睦会などで須賀敦子に関する講演を行う。個人誌に連載中の須賀敦子に捧げるエッセイ「花見」は、詩人の聲公演(東京)で随時発表しているが、近く単行本化の予定。



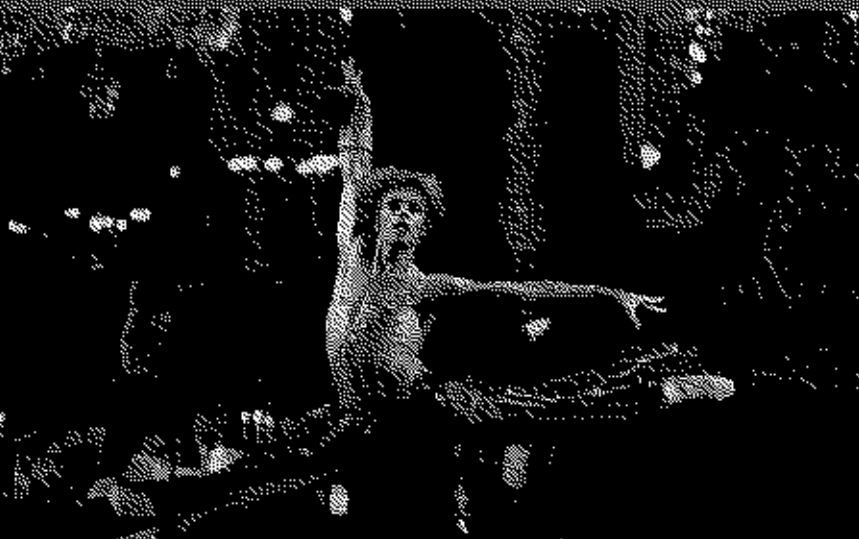
蒲沼純一 西宮芦屋研究所員

1951年西宮市生まれ。元鉄鋼会社役員。西宮芦屋研究所で阪神間をテーマに、阪神間近現代文学などのフィールドワークを専門として探求。ブログ「阪急沿線文学散歩」で台詞潤一郎から京信ハルヒまで、研究成果を幅広く発信中。西宮文学案内、朝日カルチャーセンターなどで講演を務める。

11きいき  
シネマサロン

ラスト15分！モーリス・ベジャールによる  
“ボレロ”がスクリーンによみがえる！

# 愛と哀しみのボレロ



ベルリン、モスクワ、パリ、ニューヨークを  
舞台に、  
ルトルフ・ヌレエフ（バレエダンサー）、  
エディット・ピアフ（歌手）、  
ヘルベルト・カラヤン（指揮者）、  
グレン・ミラー（音楽家）  
といった芸術家たちをモデルに作られた超大  
作。第二次世界大戦をはさみ数々の困難をく  
ぐり抜けてきた音楽家たち。彼らのドラマテッ  
クな人生模様が、見る人の心を揺さぶります。

1981年 / フランス / カラー / 185分 / デジタル・リマスター版

男と女、親と子の絆を高らかにうたいあげた  
本作の監督は、恋愛映画の傑作『男と女』  
のクロード・ルルーシュ。流麗な音楽と美し  
い映像をシンクロさせた演出で、彼の右に出  
るものはいないとされるフランスを代表する  
名匠です。クラシック、ジャズ、シャンソン  
といった多彩なサウンドを作品に提供したの  
は、ミシェル・ルグラン（『シェルブールの雨  
傘』）とフランシス・レイ（『男と女』）。映  
画音楽の歴史に名を残すふたりによる、奇跡  
のコラボレーションは必聴です。



製作 監督 脚本

クロード・ルルーシュ

音楽

音楽

振付

バレエ

ミシェル・ルグラン × フランシス・レイ × モーリス・ベジャール × ジョルジュ・ドン

とき 2016年 9月24日（土） ところ 芦屋ルナ・ホール

上映時間 ①10:00 ②14:00

料金 1,000円（中学生以上同一料金、小学生500円）  
※前売券はありません。右の割引券をご利用下さい。

主催 / 芦屋市・芦屋市教育委員会・芦屋市民名園会  
共催 / 芦屋市映画センター

お問い合わせ / 0797-35-0700  
（市民センター・ホール事務担当）

\*酒類の持ち込みは入場を断絶させていただきます。  
あらかじめご了承ください。  
\*未成年者の入場はご遠慮ください。



（情報サイトの右側リンク先より）

## 愛と哀しみのボレロ

芦屋ルナ・ホール 9月24日（土）  
①10:00 ②14:00

### 特別割引券

この割引券を点検より切り取り  
上映日にご持参ください。  
中学生以上1000円のところ

おひとり 900円で  
ご観になれます。  
（1枚で3名様まで割引します）